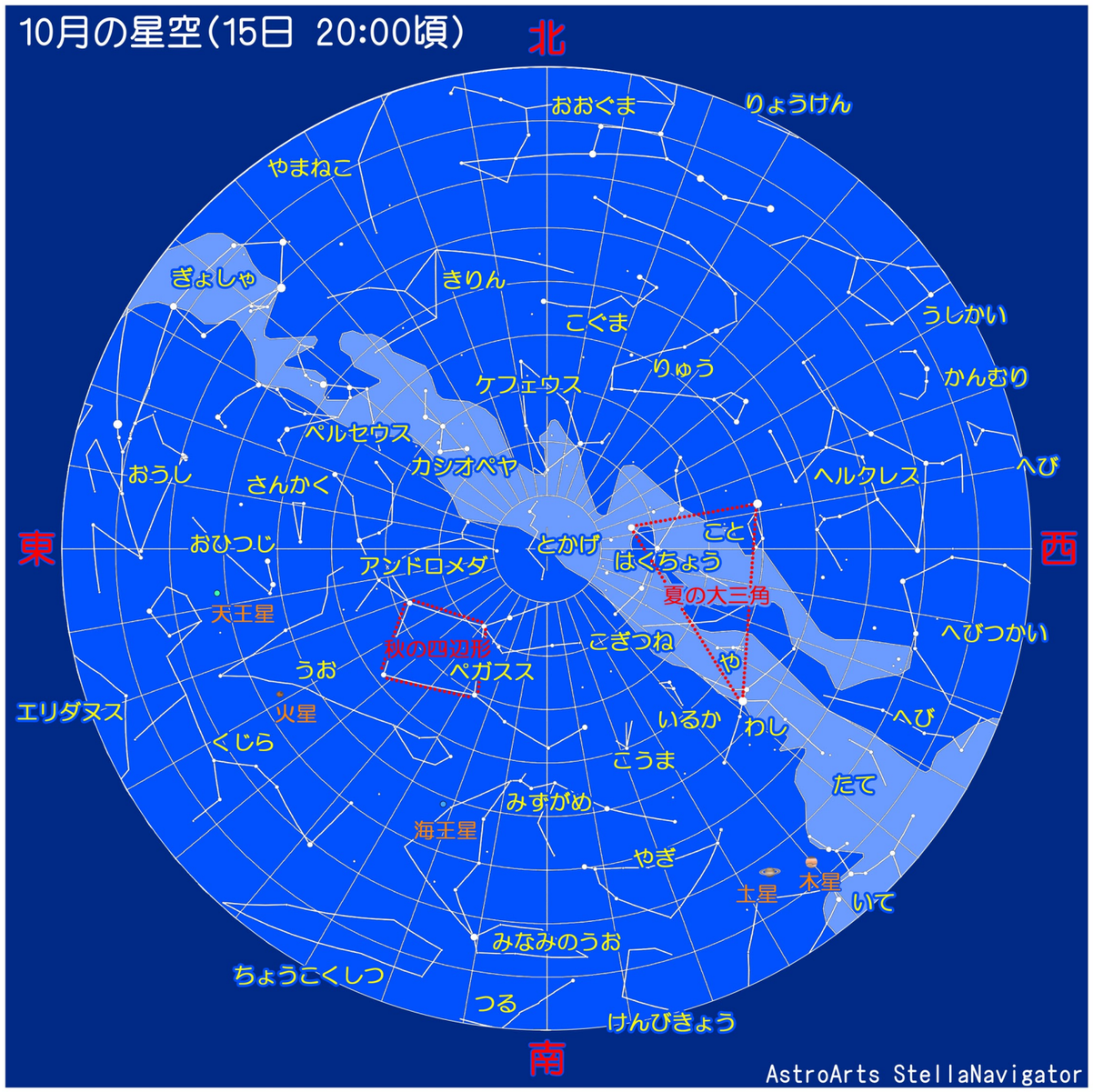
銀河の森天文台
2020年10月みどころ天体情報

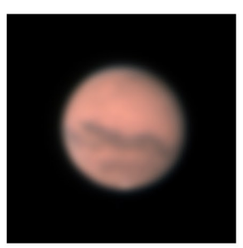


今月のイチオシ！

☆火星（惑星）

地球の一つ外側を公転する惑星、火星が10月6日に地球へ最接近します。火星は約2年2ヵ月ごとに地球に接近します。今回の接近は準大接近で、2018年の大接近と比べると地球との距離が少し遠くなっています。しかし北海道から火星を見ることを考えると、今年は仰角が高く気流の良い状態で見ることができるため、2018年の大接近時よりも火星表面の模様が観察しやすくなることが期待されます。次に今回と同程度に接近するのは、13年後の2033年7月（約6328万km）です。

10月6日の最接近時の距離：約6207万km



火星

月

		出	没
2日	満月	17:33	05:19
10日	下弦	22:10	13:15
17日	新月	05:39	17:13
23日	上弦	12:46	21:54
31日	満月	16:21	05:12

天文台から月を見ることができるのは1～6日頃と21～31日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。距離：約38万km

天王星・海王星

太陽系の外側から２つの惑星、天王星と海王星が見頃を迎えています。天王星はグリーンっぽく、海王星はブルーっぽく見えるのが印象的です。

太陽からの距離

天王星：約29億km

海王星：約45億km

M31（銀河）

有名なアンドロメダ銀河で、肉眼でも見ることができます。りくり望遠鏡では視野からはみ出してしまうほど大きく、全体を見るのであれば、双眼鏡を使うのが良いでしょう。

距離：約230万光年

M45（散開星団）

「プレアデス星団」「すばる」と呼ばれている星団で約100個の若い星で構成されています。双眼鏡の視野に広がる姿は宝石箱のようです。枕草子に「星はすばる」と書かれているほど古くから親しまれてきた天体です。

距離：約410光年

M15（球状星団）

秋を代表する球状星団でちょうどペガスス座の鼻先に位置しています。明るく非常に密集した球状星団で望遠鏡では星が密集した様子を観察することができます。

距離：約3万3600光年

NGC7662（惑星状星雲）

アンドロメダ座に位置する惑星状星雲で、青い雪玉（Blue Snowball Nebula）という愛称がついています。名前のとおり、きれいな青色が印象的です。

距離：約2000～6000光年

アルマク（重星）

色違いの重星では、はくちょう座のアルビレオが有名ですが、このアルマクも負けてはいません。オレンジ色と青色の星が寄り添う姿がとても綺麗です。

距離：約394光年

ちょっとマニア

・アキルド（重星）

カシオペヤ座のW形の星並びに寄り添うように輝いている二重星です。

黄色い3.5等星と赤色の7.5等星の暖色系のペアです。

距離：約19.4光年

その他おすすめ

- M2（球状星団）
- M52（散開星団）
- M76（惑星状星雲）
- NGC7331（銀河）
- h-χ（散開星団）
- ガーネットスター（恒星）

10・11月の銀河の森天文台カレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

開館時間

14:00～22:30
（4月～9月）

13:00～21:30
（10月～3月）

休館日